

家庭数
保護者の皆さまへ

平成 30 年 11 月 16 日
(2018年)

千里みらい夢学園
吹田市立千里たけみ小学校
校長 黒谷 聡

平成 30 年度 全国学力・学習状況調査の分析について

2学期もあとわずかとなり、朝夕の気温が下がり体調を崩しやすい季節となりましたが、保護者の皆様には、平素より本校教育にご理解とご協力いただきありがとうございます。

本年度、6年生を対象として「平成30年度全国学力・学習状況調査」を実施し、既に個人の結果をお返ししたところです。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数、理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図っていきます。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

国語

◎国語A（『知識』に関する問題）

《概要》 全国の正答率を上回り、良好な結果でした。

◎国語B（『知識の活用』に関する問題）

《概要》 全国の正答率を上回り、良好な結果でした。

●《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと

- ・知識 A、応用Bともに全国の正答率を上回る結果でした。

書くこと

- ・知識 A は全国の正答率を下回り、応用Bは全国の正答率を上回る結果でした。

読むこと

- ・知識 A、応用Bともに全国の正答率を上回る結果でした。
- ・応用Bについては1つの設問において正答率が全国値を下回る結果でした。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・知識 A において全国の正答率を上回る結果でした。（国語 B は該当の設問なし）
- ・漢字やことわざ等についての設問では、1 つの設問において正答率が全国値を下回る結果でした。

●国語科における成果と今後の改善点について

「話すこと・聞くこと」は良好な結果となっています。昨年度に引き続き「書くこと」については、学校として組織的に取り組んでいます。千たけプリントでは、思考力・表現力の向上を意図した問題を多く出題しています。引き続き改善に向けて、家庭学習を充実させ、千たけプリント等でサポートをしていきます。

「書くこと」の領域における「目的や意図に応じて必要な内容を整理して書くこと」や「表現の文章構成における効果」についての正答率は全国値を下回り、昨年に引き続き課題となっています。

改善を図るための具体的な方策として、目的に応じて文章の内容を的確に押さえて要旨を捉える学習や、事実と感想・意見などを自分の伝えたいことや目的に合わせてうまく結びつけて詳しく書くような学習を積み上げていくことが大切だと考えます。また、多くの情報や自分の考えを整理していく学習や様々な条件に合わせて書く学習の機会を増やしていきたいと思います。

算数

◎算数 A（『知識』に関する問題）

《概要》 全国の正答率を上回り、良好な結果でした。

◎算数 B（『活用』に関する問題）

《概要》 全国の正答率を上回り、良好な結果でした。

◎無回答率が 0% の設問が多く見られました。

●《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算

- ・知識 A、応用 B ともに全国の正答率を上回る結果でした。
- ・応用 B は、全ての設問において全国の正答率を上回りました。

量と測定

- ・知識 A、応用 B ともに、全国の正答率を上回る結果でした。

図形

- ・知識 A は、1 つの設問のみ全国の正答率を下回りました。
- ・応用 B では全ての設問において全国の正答率を上回りました。

数量関係

- ・知識 A は全国の正答率を上回る結果でした。
- ・応用 B は、1 つの設問のみ全国の正答率を下回りました。

●算数科における成果と今後の改善点について

千里みらい夢学園が推進する「学びのスタイル」に基づく、個人で考え、グループや全体で交流し、まとめて振り返るという授業の定着が思考力の向上につながっていると思われます。また、基礎的な問題については千たけタイム（朝学習）、応用的な問題については千たけプリントといった学校全体での組織的な取組の定着により、低学年からの積み上げの効果が出ています。

正答数分布は、全国の分布状況と比べて、低位層が少なく、高位層が多い結果となっています。無回答率0%の設問が多く、最後まで粘り強く問題に取り組んでいると言えます。「空間の中にあるものの位置を正しく見る力（立体）」の問題において、全国に比べ正答率が低くなっています。図形構成や図形分割など、日常の中で、体験や活動経験を増やしていくことが重要であると考えます。

理科

《概要》全国の正答率を上回る結果でした。

●《各区分における成果と課題、指導改善のポイント》

物質

- ・ほぼ全国の正答率を上回りましたが、「ろ過の適切な操作方法」についての設問は全国値を下回りました。

エネルギー

- ・4つの設問のうち3つの設問において、全国の正答率を下回りました。電流や回路についての正答率が低く課題です。

生命

- ・4つの設問のうち3つの設問において全国の正答率を下回りました。鳥の翼や人の腕のつくり、腕の曲がる仕組みなどに関する正答率が低く課題です。

地球

- ・すべての設問において全国の正答率を上回りました。

●理科における成果と今後の改善点について

正答数分布は、全国の分布状況と比べて、中位層が多い結果となっています。全体の結果はわずかに全国の正答率を上回る結果となりましたが、16問中7問で全国の正答率を下回る結果となっています。理科の授業では、できるだけ少人数でグループを編制し、じっくり観察したり実物に触れたりするなど、実験の道具を扱う機会を増やしてきました。知識・理解の定着は見られましたが、観察の場面で予想したり、実験結果を基に変化と要因を関連付けて考察したりする力は課題として挙げられます。実験や検証から分かった事実を、他の場面ではどうなるのか、日常生活に応用できないかを考える時間も必要であると考えます。理科のミニプリント学習や家庭学習で用語の定着を図るとともに、実験や観察を授業の中に多く取り入れ、予想や考察の時間を十分にとることで児童一人ひとりが面白い、楽しいと思える授業を目指していきたいと思えます。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

学習環境・生活環境等について

- 起床や就寝時刻について「毎日同じ時刻である」と答える児童の割合は全国値を下回っています。規則正しい生活を心がけていきましょう。
- 「家の人と学校での出来事について話をしますか」での肯定的回答は全国値に比べ下回っています。一日の時間の中で、家族で話す時間をできるだけつくるように心がけ、豊かな言葉と温かい心を育てていきましょう。
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか」「新聞を読んでいますか」「テレビやインターネットでニュースを見ますか」での肯定的回答は全国値に比べ下回っています。学校・家庭で身近な出来事やニュースを取り上げ、関心を高めていく必要があります。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」での肯定的回答は全国値に比べ下回っています。社会のために何をすべきか考えたり、地域ボランティアに積極的に参加したりする機会を増やしていく必要があります。
- 「家で学校の宿題をしていますか」での肯定的回答は100%となっています。一方、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」「家で、学校の授業の予習復習をしていますか」での肯定的回答は全国値に比べ大きく下回っています。宿題など決められた課題に対しては意欲的でも、自主的に取り組むことは少ないと言えます。自主学習等への取組も考えていきます。
- 「自分にはよいところがある」では、肯定的な回答が94%で全国値より高い結果となっており、自己肯定感が高いと言えます。

教科・学習について

- 「理科の授業で自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか」での肯定的回答は全国値に比べ上回っています。また、「5年生までに受けた授業で自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していたと思いますか」での肯定的回答は全国値に比べ上回っています。継続した学びのスタイルでの学習がしっかりと定着していると考えられます。
- 「算数の勉強は大切だと思う」での肯定的回答は全国値に比べ上回っていますが、「算数の勉強は好きですか」、「算数の授業の内容はよく分かりますか」に対する肯定的回答は全国値に比べ大きく下回っています。十分な理解をしつつ、大切と感じながらも好きになれないと回答している児童が数多く存在しています。こういう思いの子ども達がいかに学ぶことが好きだと感じることをできるようにするかが今後の大きな課題の一つです。
- 「理科の勉強は好きですか」「理科の勉強は大切だと思う」での肯定的回答は全国値に比べ大きく下回っています。自然体験・観察・実験などの機会を増やし、自然事象への興味関心を高め、科学的な思考力も養う必要があります。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の設問では、肯定的に答えた児童は95%となり、全国値を上回っています。少人数指導や各専科、よりみち（今年度は休み時間など）など多くの教師が一人ひとりの児童に係わる機会が多い結果であると考えています。

3 今後の取組

ここ数年において「学力」の面では、全国値を上回る値を示しており、日頃の取組の積み上げが成果に表れていると思います。一方「家庭学習」や「学習状況」などにおいては肯定的な回答の値が低い傾向にあります。ここにおける課題に対して、家庭と共に取り組むことでさらなる学びにつながっていくと考えます。

教科に関する結果を踏まえ、各教科での基礎基本の定着と共に思考力・表現力の育成を図っていきます。また、今後もコミュニケーション能力の育成を図るために少人数授業等での学習形態や発表の工夫をしながら、考えを伝え合い学び合う授業の構築をさらに進めていき、学園として「学びのスタイル」に基づいた授業を引き続き推進していきます。

さらに、様々な学習や体験活動、交流活動の中で、地域や社会にも目を向けさせながら児童の自立と豊かな心の育成を図っていきます。今後も全教職員で気持ちを一つにして、保護者・地域の方々と協力しながら、教育実践に努めていきたいと思っておりますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。